

令和7年(2025年)中の火災・救急・救助の概要について

火災概要

令和7年中の火災発生件数は11件で、前年と比べ6件の減少となっている。これを火災種別ごとにみると、建物火災が7件、車両火災が3件でともに増減なし、その他の火災が1件で6件の減少となっている。

焼損棟数は16棟で、前年と比べ4棟の増加となっている。これを焼損程度ごとにみると、全焼が5棟で2棟の増加、半焼が1棟の皆減、部分焼が6棟で3棟の増加、ぼやが5棟で増減なしとなっている。

焼損面積は床面積が479平方メートルで244平方メートルの増加、表面積は26平方メートルの皆増となっている。

人的被害は、死者が2人の皆増、負傷者が4人で3人の増加となっている。

り災世帯数は、全損が5世帯で3世帯の増加、小損が8世帯で3世帯の増加、り災人員は39人で23人の増加となっている。

損害額は8,653万5千円で、前年と比べ4,820万4千円の増加となっている。これを損害種別ごとにみると、建物損害が8,291万円2千円で4,466万3千円の増加、車両損害が355万6千円で349万5千円の増加、その他の損害が6万7千円で4万6千円の増加となっている。

出火原因の状況については、その他が4件、こんろと不明が各2件、火入れ、電気機器、配線器具が各1件となっている。

前年と比べ火災件数は減少しており、放火及び放火の疑いが原因となる火災も発生していないが、今後もさらに放火による火災発生防止の徹底を図り、防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分		年 別		令和7年 (2025年)	令和6年 (2024年)	前年との 比 較
		令和7年 (2025年)	令和6年 (2024年)			
出火件数 (件)	建物火災			7	7	0
	林野火災					
	車両火災			3	3	0
	船舶火災					
	航空機火災					
	その他の火災			1	7	△6
	計			11	17	△6
焼損棟数 (棟)	全			5	3	2
	半				1	△1
	部分			6	3	3
	ぼ			5	5	0
	計			16	12	4
焼損面積	建物 (m ²)	床面積		479	235	244
		表面積		26		26
	林野	(a)				
人的被害 (人)	死者			2		2
	負傷者			4	1	3
り災世帯 (世帯)	全			5	2	3
	半					
	小			8	5	3
り災	人員	(人)		39	16	23
損害額 (千円)	建物損害			82,912	38,249	44,663
	林野損害					
	車両損害			3,556	61	3,495
	船舶損害					
	航空機損害					
	その他の損害			67	21	46
	爆発損害					
	計			86,535	38,331	48,204
1日平均損害額		(千円)		237	105	132
市民1人あたりの損害額		(円)		1,212	532	680
火災1件あたりの損害額		(千円)		7,867	2,255	5,612
建物火災1件あたりの焼損床面積		(m ²)		68	34	34
出火率		(件/万人)		1.5	2.4	△0.9

△は減少を示す。

救急概要

令和7年中の救急出動件数は4,464件、搬送人員は4,135人で前年と比べ出動件数は17件の増加、搬送人員は29人の減少となり、1日平均12.2件の出動となっている。

これを事故種別ごとにみると、急病3,232件、一般負傷731件、交通事故216件で全体の93.6%を占め、以下転院搬送123件、労働災害35件、自損行為26件、運動競技22件、火災及び加害が各5件、自然災害1件、その他が68件となっている。

事故種別ごとに前年比較をすると、急病47件、一般負傷27件、火災4件、自然災害及びその他が各1件の増加に対し、交通事故39件、労働災害7件、加害及び転院搬送が各5件、水難3件、自損行為2件、運動競技及び資機材搬送が各1件の減少となっている。

搬送人員4,135人の傷病程度については、死亡77人、重症70人、中等症1,788人、軽症2,200人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の53.2%を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合をみると、交通事故80.7%、一般負傷62.6%、急病50.3%となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内44.5%、久御山町内25.3%、宇治市内18.6%、京田辺市内8.5%、京都市内2.5%、その他の京都府内0.4%、他府県が0.2%となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、上級救命講習を2回41人、普通救命講習Iを23回425人、その他の講習を41回2,817人に対して実施している。

令和7年中の救急出動状況は、前年と比べ出動件数で0.4%の増加、搬送人員で0.7%の減少となっている。搬送人員のうち、高齢者の占める割合は71.1%で、前年と比べると0.3%増加しており、高齢化社会を象徴する状況となっている。

今後も救急車の適正利用についての市民啓発を継続するとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

年 別 区 分		令和 7 年(2025年)			令和 6 年(2024年)			前年との比較			
		出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	
事 故 種 別	火 災	5		2	1		1	4		1	
	自 然 災 害	1						1			
	水 難				3			△ 3			
	交 通 事 故	216	1	207	255	2	235	△ 39	△ 1	△ 28	
	労 働 災 害	35		35	42		43	△ 7		△ 8	
	運 動 競 技	22		24	23		25	△ 1		△ 1	
	一 般 負 傷	731	1	688	704		688	27	1	0	
	加 害	5		5	10		10	△ 5		△ 5	
	自 損 行 為	26		24	28		23	△ 2		1	
	急 病	3,232	3	3,027	3,185	1	3,012	47	2	15	
	そ の 他	転 院	123		123	128		127	△ 5		△ 4
		医 師 搬 送									
		資 機 材 搬 送				1			△ 1		
そ の 他		68	1		67			1	1		
合 計		4,464	6	4,135	4,447	3	4,164	17	3	△ 29	
不 搬 送 件 数		338			308			30			
出 動 延 べ 人 員		13,712			13,788			△ 76			
1 日 平 均 出 動 件 数		12.2			12.2			0			
1 日 平 均 搬 送 人 員		11.3			11.4			△ 0.1			
1 日 最 多 出 動 件 数		28			23			5			

△は減少を示す。

傷病程度別救急搬送人員状況

傷病程度別 事故種別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
死亡	68	2	4	3	77	1.9
重症	60	2	3	5	70	1.7
中等症	1,376	36	250	126	1,788	43.2
軽症	1,523	167	431	79	2,200	53.2
その他						
計	3,027	207	688	213	4,135	100.0
軽症者比率 (%)	50.3	80.7	62.6	37.1	53.2	

収容先別救急搬送人員状況

収容先別 事故種別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
城陽市	1,328	100	352	61	1,841	44.5
久御山町	760	53	185	46	1,044	25.3
宇治市	591	24	95	59	769	18.6
京田辺市	257	30	46	20	353	8.5
京都市	77		5	22	104	2.5
その他の京都府内	12		5	1	18	0.4
他府県	2			4	6	0.2
計	3,027	207	688	213	4,135	100.0

年齢別救急搬送人員状況

年齢別 \ 事故種別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
新生児	2				2	0.1
乳幼児	118	3	26	4	151	3.7
少年	59	22	18	29	128	3.1
成人	666	94	81	72	913	22.1
高齢者	2,182	88	563	108	2,941	71.1
計	3,027	207	688	213	4,135	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救 助 概 要

令和7年中の救助出動件数は78件、活動件数は59件、救助人員は31人で、前年と比べ出動件数は8件の増加、活動件数は14件の増加、救助人員は増減なしとなっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、火災の出動件数が2件で活動件数が2件、交通事故の出動件数が6件で活動件数は5件、自然災害及び機械による事故の出動件数が各1件で活動はなし、建物等による事故の出動件数が40件で活動件数は35件、その他の事故の出動件数が28件で活動件数は17件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、交通事故では4人を救助し、死亡、中等症が各2人、建物等による事故では22人を救助し、重症が1人、中等症が16人、軽症が4人、不搬送が1人、その他の事故では5人を救助し、中等症が2人、軽症が1人、不搬送が2人となっている。

前年と比べ救助出動件数は増加しており、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

年 別 事故種別	令和7年 (2025年)			令和6年 (2024年)			前年との比較		
	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)
火 災	2	2					2	2	
交 通 事 故	6	5	4	9	7	8	△ 3	△ 2	△ 4
水 難 事 故				4	4	4	△ 4	△ 4	△ 4
風水害等自然災害	1						1		
機械による事故	1			1			0		
建物等による事故	40	35	22	30	29	19	10	6	3
ガス及び酸欠事故				1			△ 1		
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	28	17	5	25	5		3	12	5
合 計	78	59	31	70	45	31	8	14	0

△は減少を示す。

事故別傷病程度状況

傷病程度 事故種別	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	傷病程度						
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	そ の 他 (人)	不 搬 送 (人)	
火 災	2								
交 通 事 故	5	4	2		2				
水 難 事 故									
風水害等自然災害									
機械による事故									
建物等による事故	35	22		1	16	4			1
ガス及び酸欠事故									
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	17	5			2	1			2
合 計	59	31	2	1	20	5			3